



(財)ひろしま国際センター 平成24年度運営方針，施策体系について

○平成24年度 業務方針について

当センターは、平成元年の設立以来、県内の企業・団体を始め、幅広い県民の皆様のご理解・ご協力のもと、民間レベルの国際交流の推進に努めるとともに、開発途上国の人材育成やNGO活動の支援などに取り組み、広島県の国際化を推進してまいりました。

近年、経済のグローバル化の進展等により、国境を越えた活動は年々活発化しており、広島県においても平成22年末時点では、3万9千人を超える外国籍県民が、就労や留学など、さまざまな在留形態によって地域社会で暮らしています。このように、私たちの身近なところで国際化、グローバル化が着実に進む一方、労働や福祉、言葉の問題など、外国籍県民に係わるさまざまな課題も顕在化しており、これらへの取り組みとともに、多様化するニーズへの適切な対応も求められています。

そこで、当センターでは、こうした社会経済環境の変化に対応し、県内全域のグローバル化の推進による地域の活力向上に寄与するため、平成23年度において施策や事業推進体制の見直しを行ってまいりましたが、平成24年度においても、引き続き効果的な施策・事業実施のための検討を進め、当センターの広域センター機能やコーディネート機能の一層の強化に努めてまいります。

交流部の中核事業として、「外国人総合相談窓口運営事業」や市町担当者等への研修を通じて、外国籍県民への支援や県内地域の交流団体との連携による多文化共生活動の推進を行う「日本語学習支援事業」を推進します。また、これまでの「国際交流なんでもボランティア運営事業」を「多文化共生ボランティア事業」と名称を変え、地域に貢献できるボランティアの育成を目指し、各種育成事業を実施します。

また、留学生支援として、引き続き「奨学金支給事業」を実施するとともに、この度、移管された広島県留學生生活支援センター*を中核として、優秀な留學生の受入と県内企業等への定着促進のため、各種事業を実施してまいります。(次ページ施策体系参照)

*広島県留學生生活支援センターについては、6ページに記載しています。

○開館時間の変更について

当センターの広域センター機能やコーディネート機能の一層の強化を目的に市町、大学関係機関及び企業等が活動している時間帯に合わせ、平成24年4月1日からひろしま国際センターの開館時間を次のとおり変更します。

開館時間	月～金曜日	10：00～19：00
	土曜日	9：30～18：00
	日曜日、祝日・年末年始	休 館



理事会風景

平成24年3月23日の理事会において、平成24年度予算及び事業計画について承認をいただきました。

目次

2面 交流部だより
7面 国際プラザニュース
8面 こちらJICAデスク
9面 サミット加盟団体だより

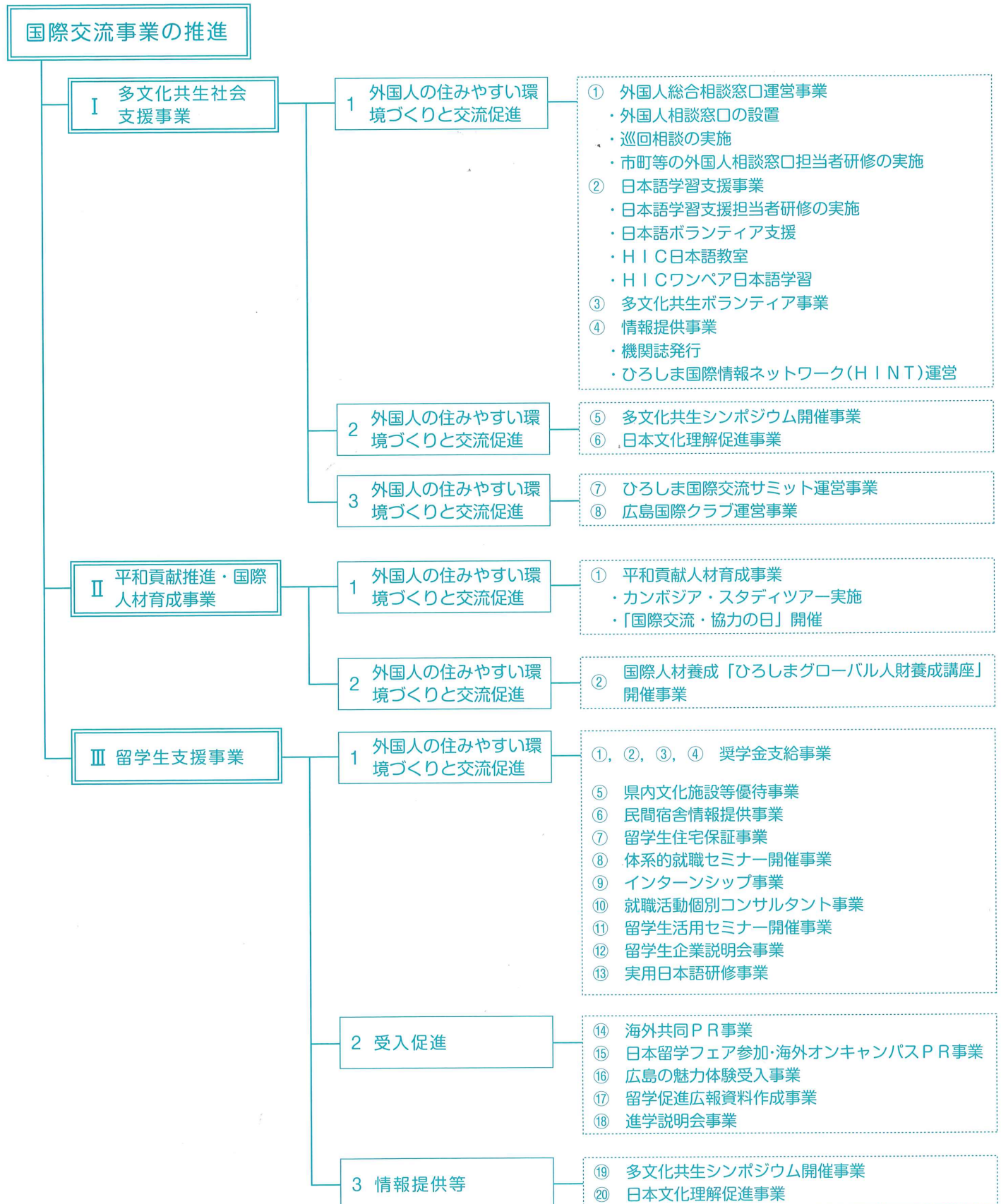
10面 Upcoming Events News
11面 Hello Hiroshima
12面 HICからのお知らせ 他

(財) ひろしま国際センター 平成24年度の業務方針及び施策体系について

○平成24年度 施策体系について

当センター交流部の施策体系は下図のとおりです。

[交流部]



カンボジア・スタディツアー 報告

2月12日から19日、6泊8日の日程で「カンボジア・スタディツアー」をJICA中国国際センターと共催実施いたしました。

今回で通算8回目となる本ツアーは、県民に開発途上国や国際協力への理解を深めていただくとともに、それらを通じて国際協力・平和貢献における人材育成を目的としたHICの平和貢献推進・人材育成事業のひとつです。カンボジアでは、日本政府やNGO、民間団体等、様々な立場の方が、教育、医療等様々な分野で内戦後の復興事業に深く関わっていますが、特に広島に関わりのある視察先が含まれることは本ツアーの特色のひとつであり、今回は社会人1名(男性)と大学生21名の計22名での実施となりました。

ツアーの前半、JICAカンボジア事務所では、JICAの事業活動とともにここ数年の目覚ましいスピードで進むカンボジアの開発・発展と、同時に起きている格差の問題(それは、私たち自身がツアーを通して常に目にすることになります)、支援の在り方などについてお話を伺いました。質疑応答では、国際協力の分野に興味を持つ参加者たちから、盛んに質問があがり、視察時間はあっという間に過ぎてしまいました。

広島県復興支援プロジェクトの活動現場であるタケオ州の教員養成校では、2名の青年海外協力隊員の方に校内を案内いただき、隊員の方々の教育支援に対する熱い想いと、その想い通りにはいかない教育現場の実情に、参加者はもどかしさを感じると共に今なお残る深い内戦の爪痕と支援の難しさについて感じ、学んだようです。

ツアー後半、シェムリアップで訪れたクメール伝統織物研究所では、日本人が中心となって取り組んでいる、内乱の時代に途絶えかけた伝統的な絹織物の復興について、その技術の継承と資源である蚕と蚕をはぐくむ森の復興という一連の活動についてお話を伺いました。参加者は、その技術の精巧さに驚くと共に、伝統文化・技術の衰退にも内戦が深くかかわっていることに衝撃を受けているようでした。また、ササースダム中核小学校及び児童宅訪問では、授業の様子を見学した後に子供たちと一緒に遊びその笑顔に癒され、カンボジアの未来に希望を感じると同時に、自分たちの生活とは全く異なる子供たちの生活の現状に、複雑な感情を覚えたようです。さらに、現地の方との交流と市内視察を兼ねて、マーケット視察を時間の許す限り行程に組み込みましたが、それぞれのマーケットで対象とする顧客や販売物、雰囲気も異なり、カンボジアの様々な側面を感じられると共に、値段交渉など現地の方とのやり取りも楽しめたようです。

6泊という短い滞在期間の中で、私達が視察したのは、カンボジアの一角・表面にすぎませんが、それでも多くのことを感じ、学びました。参加者の印象に残った場面や出来事は様々ですが、共通していたのは、平和貢献や国際協力以前に、実際に現地に行ってみて、感じるのがいかに大切か、それが自分の価値観にどれだけ大きな影響を与えてくれるかということを学んだことではなかったでしょうか。

最後に、ツアー実施にあたりご尽力くださいました多くの関係者の方々に心より御礼申し上げます。(地主)

※ツアー参加者が何を見て、感じ、学び、考えたのか、参加者の報告書を今後、HPにアップする予定です。なお、昨年度ツアー参加者の報告書は、下記URLよりご覧いただけます。

<http://hiroshima-ic.or.jp/hic/exchange/personnel/heiwakouken23.html>

ツアー行程(概略)

2/12	プノンペン市内視察
2/13	カンボジアひろしまハウス視察 JVC技術学校視察 JICAカンボジア事務所訪問 プノンペン市内視察 現地日本語学習者との交流会 他
2/14	タケオ州教員養成校視察 国立小児病院視察 プノンペン市内視察 JICA関係者との交流会
2/15	トゥール・スレン収容所跡視察 チュム・メイ氏との対話 キリングフィールド視察 シェムリアップ市内視察
2/16	クメール伝統織物研究所視察 ササースダム中核小学校視察 ササースダム児童宅訪問 シェムリアップ市内視察 他
2/17	アンコール・トム、タ・プローム視察 地雷博物館視察 アンコール・ワット視察 他
2/18	トンレサップ湖視察 シハヌークイオン博物館見学 スナダイクマエ孤児院視察 アーティザン・アンコール視察

日本語学習支援ボランティア養成講座 in 三原市

三原市との共催により、3月4日(日)・18日(日)の2日間コースで三原市中央公民館にて「日本語学習支援ボランティア養成講座」を開催しました。当センターの日本語常勤講師などを講師に、「外国語体験」「やさしい日本語」「外国籍住民の声を聴く」「共に作り上げる日本語学習教材『ことばの地図』を使った活動紹介」を実施し、地域に暮らす外国人が快適な生活をおくることができるように、日本語学習支援においてボランティアとしてできることについて考えました。

40名を超える参加者のほとんどがこれから活動を検討されている初心者の方々でした。講座の中では、三原市在住の外国人をゲストに迎え、グループに一人ずつ入ってもらい、日々の生活や生活上の悩みなどを話していただく場面もありました。フィリピンコミュニティを立ち上げたばかりで、日本語などを教えてもらえる日本人支援者を募集中というフィリピン人ゲストの方もいらっしゃり、参加者からは「同じ小さい子供を持つ母親として一緒に関わっていけることがあると思った」という声上がるなど、今後の活動の場につながる講座になりました。(佐藤)



「ひろしま国際交流サミット総会・講演会・交流会」を開催



副議長 スティーブンリー氏による挨拶

2月18日(土)に広島ガーデンホテルにて「ひろしま国際交流サミット総会」を開催しました。総会後は、日本人と外国籍住民の協働発祥の地、神戸「たかとりコミュニティセンター」に拠点を持つNPO法人多言語センターFACIL(ファシル)吉富志津代様による演目「国際交流を現場から考える 今、私たちにできること～神戸と東日本の事例から～」の講演会を実施しました。わかりやすいプレゼンに加え、ベトナム人の集住地区でもある長田区での震災時支援活動の映像や日本社会の中で生活するベトナム移民2世ラッパーの心情を表現した映像は参加者の心を揺さぶり、多文化共生社会の大切さを再認識させられました。講演後は、吉富様の進行で、サミット初の取組みとなるワークショップを開催しました。広島に住む外国人が大地震で被災した際の予想される課題と支援方法を時間軸で考え、老若男女、帰属組織もさまざまな参加者が活発に話し合い、ネットワークを築きました。

「広島国際交流サミット」は、広島県内の国際交流・協力団体やNGO・ボランティアグループ等の交流を図るために運営しています。講演会等は広く一般の方にもお知らせし、皆さんの活動の一助となれればと考えております。今後の展開にご期待下さい。

(野口)



吉富講師と参加者の皆さん



ワークショップの様子(議長上田先生も一緒に)



ワークショップ グループ発表

「雪生活体験」を開催しました

1月29日(日)に今年度最後の日本文化理解促進事業となる「雪生活体験」を美和東ふるさと振興協議会、北広島町、北広島町女性会美和東支部と共催で開催しました。申込総数172名から選ばれた17カ国1地域44名の在広外国人に参加いただき、北広島町溝口地区の方々との交流を深めました。

当日は、幸運にもたくさんの雪が降り、外国人参加者は思う存分雪遊びを楽しむことができました。また、地元料理と外国料理を囲んだ交流会や地元芸能、外国人参加者による母国紹介も実施しました。

交流会では、外国人参加者に、ミックス野菜カレー(インド)、麻婆豆腐(中国)、カルデレータ(フィリピン)、ポボティ(南アフリカ)をふるまっていました。

外国人参加者による母国紹介では、イギリスのバグパイプ演奏やラオスのパスロップダンスを披露していただきました。ラオスのランボンダンスを全員で踊ることで、地元溝口地区の方々にも外国文化に触れていただき、より交流を深めることができました。

また、地元の方々による踊りと神楽は、外国人の方たちにとって大変興味深かったようで、その美しい舞と迫力のある演技に見入っていました。

(大辻)



雪体験の様子



全員で記念撮影

相談時間が変わります！ ～ H I C外国人総合相談窓口 ～

平成24年(2012年)4月1日より、「外国人総合相談窓口」の相談時間が以下の時間になりますので、ご注意ください。

【相談時間】 (火・木) 10:00～12:00, 13:00～16:00 (土) 9:30～12:30

【専門分野】 在留資格(VISA他), 社会保険, 労働問題

【通 訳】 中国語 フィリピン語(火曜午前のみ) 韓国語(木曜午前のみ)
ポルトガル語 スペイン語(木曜午前・土曜のみ) 英語(土曜のみ)

【電話番号】 フリーダイヤル 0120-783-806 携帯電話からかける場合 082-541-3888(直通)

新しい在留管理制度がスタートします！

外国人新時代…

NPO法人ビザサポートセンター広島
益田浩司(HIC専門相談員)

2009年に改正された出入国管理及び難民認定(入管)法は戦後最大の改正といわれています。2012年7月9日から在留管理制度は大きく変わります。

①**在留カードが交付されます。**

②**外国人登録法が廃止されます。**

7月9日から「外国人登録証明書」が変わって、「在留カード」が交付されます。(一定期間は「外国人登録証明書」が「在留カード」とみなされます。)

在留カードは 以下の i) ～ iii) にあてはまらない外国人(=中長期在留者)に交付されます。

i) 「3月」以下, 「短期滞在」に在留資格が決定された人

ii) 「特別永住者」(注)

iii) 在留資格のない人

(注) 特別永住者は特別永住者証明書(カード)が発行されます。

③**在留期間が最長5年になります。**(在留期間が「5年」にならない在留資格もあります。)

在留期間更新, 在留資格変更などにより「5年」の在留期間が決定された場合在留手続きが少なくなるため利便性が向上します。

(注) 新たに在留期間「3月」が設けられました。この場合, 在留カードが交付されません。就労の在留資格でも「在留カード」が交付されない場合がありますので注意が必要です。(在留カードを持っていないでも就労ができるという例外があるということ)

④**再入国許可制度が変わります。**

1年以内に再入国する場合は原則として再入国許可が不要となります。(みなし再入国許可といえます)

この制度を利用する時には「在留カード」を必ず提示してください。

(注) みなし再入国許可は海外での延長はできません。必ず再入国しないと現在の在留資格が失われます。

⑤**外国人の方も住民基本台帳(住基)法の対象となります。**

日本人と同じく外国人の方にも住民票が請求できます。これが外国人登録原票記載事項証明書の代わりになります。複数国籍世帯の場合も家族全員の住民票の写しを請求することが可能となります。

◎在留期間更新許可や在留資格変更許可がされた場合には, 14日以内にお住まいの市区町村役場に届出をする必要がありました, 7/9以降は不要となります。

◎住居地の(変更)届出について

住居地の届出は入管法・住基法の双方で届出が必要となるのでお住まいの市区町村役場に14日以内に届出をしてください。

特に現在住んでいる市区町村以外に引っ越す場合はあらかじめ転出届を現在お住まいの市区町村役場におこない, 転出証明書を発行してもらい, 新たな住居地が決まってから14日以内に市区町村役場に転出証明書を持って転入届をおこなってください。その際は「在留カード」「特別永住者証明書」を必ずご持参下さい。

詳しくは…

入国管理局のHP http://www.immi-moj.go.jp/newimmiact_1/index.html

総務省のHP http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/jichi_gyousei/c-gyousei/zairyu.html

H I C外国人総合相談窓口にもお問合せください。

新たに「広島県留生活躍支援センター」が当財団の一部門になりました

広島県留生活躍支援センター(以下、支援センター)は、広島県への優秀な留学生の受入・定着を総合的に支援する組織として、昨年4月に一般社団法人教育ネットワーク中国の新規事業部門として発足した組織です。この度、支援センターが、機能強化のため、4月1日より、当財団の一部門となりましたので、その活動についてご紹介します。

支援センターは、海外からたくさんの人に広島へ来て勉強してもらいたい、又、卒業後には、県内企業に就職して、地域の活力向上に貢献してもらいたいという県内大学、短期大学、高等専門学校、日本語教育機関、経済団体や地方自治体などの共通の願いから設置されました。

支援センターでは、海外から留学生を受け入れるためのPRや生活・勉学の支援、就職の支援を行っています。今回は、就職支援プログラムについてご説明します。

日本で学んでいる留学生の内、卒業後、日本での就職を希望しているのは約6割といわれています。しかし、日本で就職することができるのは、そのうち半分以下という統計データがあります。日本で、就職したいと思う留学生全員が就職できる状況にはありません。

日本企業に就職して働くためには、「専門知識」は当然必要です。しかし、企業は他にも「日本語能力」や「コミュニケーション能力」、「積極性(やる気)」などを求めています。

また、日本の就職活動は、学部3年生の後半から始まります。ですから、留学生は日本独特の就職活動の流れや仕組みを知って、就職のために準備をすることがとても大切です。

それでは、支援センターが留学生のために行っている就職支援プログラムについて説明します。

まずは、就職活動や就職してから必要な日本語能力を身につけるための「実用日本語研修」を行います。留学生は、日本語能力試験や留学試験などに合格して大学に入学し、勉強していますが、実際に日本で就職して働くためには、日本語の能力がまだまだ十分とは言えません。

「実用日本語研修」では、留学生の皆さんの日本語能力をアップするためのビジネス日本語研修と、日本文化を理解したり、地域の皆さんと交流したりするための「ホームステイ」や、日本企業を理解するための「インターンシップ」とをセットにして行っています。

次に、日本での就職活動の心構えや日本における留学生の就職環境などの他、企業の採用活動の仕組みを学ぶ「就職活動入門セミナー」を行います。更に、就職活動を行うための知識や技術を習得するための「就職活動実践セミナー」を行います。このセミナーでは、就職活動に必要な「エントリーシート」や「履歴書」の書き方、面接の受け方など実践的に学ぶことができます。

さらに、「就職活動実践セミナー」を受講した留学生(主に学部3年生)を対象に、最後のステップとして「就職活動個別コンサルタント」という事業を行います。これは、就職のための個別相談や指導を専門のキャリアコンサルタントが行い、一人一人をサポートします。

また、年に2回「留学生合同企業説明会」を開催します。この説明会には、留学生を採用したい県内企業が出展し、自社の説明を行います。このように留学生と企業がマッチングできる機会も用意しています。

これらのプログラムは、各大学の国際センターやキャリアセンターなどからお知らせしていきます。

以上のような事業を通じて、留学生の皆さんが、卒業後に広島県内の企業に就職し、活躍できるよう支援して参ります。

【2012年の就職支援プログラム予定】

- 6月 就職活動入門セミナー
第1回留学生合同企業説明会
- 8月 実用日本語研修
ホームステイ
- 9月 インターンシップ
- 10月 就職活動実践セミナー
- 12月 就職活動個別コンサルタント
- 2013年1月 第2回留学生合同企業説明会



日本語研修の様子



就職セミナー参加者記念写真



合同企業説明会の様子



インターシップの様子

広島県留生活躍支援センター

所在地 〒730-0037 広島市中区中町8-18
広島クリスタルプラザ6F

電話 082-541-3781

FAX 082-243-2001

E-mail office@int-students-hiroshima.jp

ワールドクッキング教室受講者 募集中

世界の料理や文化を気軽に体験することができるワールドクッキング教室は、平成24年度前期の受講者を募集中です。教室は月1回で、火曜日クラス・木曜日クラスの2クラスです。料金は5回で7,500円です。時間は10時～14時です。興味のある方は是非、お問い合わせください。(定員 各クラス20名)



【参考～後期開催内容】

インドネシア料理(平成24年2月)▶

	第1回 5月	第2回 6月	第3回 7月	第4回 8月	第5回 9月
日 程	15(火), 24(木)	19(火), 28(木)	10(火), 19(木)	21(火), 30(木)	11(火), 20(木)

前期の料理は、メキシコ料理、シリア料理、アルジェリア料理、ロシア料理等を予定しています。

*日程や料理の予定は、事情により変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

平成24年度 国際交流ボランティア募集中

研修部では、ひろしま国際プラザ(東広島市鏡山)で行われる様々な交流事業でお手伝いいただける方を募集しています。

種 類	内 容	日 程
華道・書道教室(年数回)	各教室の講師の通訳	月曜日 19:00～21:00
茶道・着付け教室(年数回)	各教室の講師の通訳	金曜日 19:00～21:00
酒まつり	外国語で酒蔵通りの案内	酒まつり期間中の午前または午後
世界まるごと体験デー	色々な世界の文化体験ブース(折り紙等)での通訳	土曜日 10:00～14:00(昨年度は11月・2月)
クッキング交流会(年数回)	参加者間(外国人と日本人)の通訳	土曜日 10:00～14:00
ワールドクッキング教室(月2回)	講師の通訳	第3火曜日・第4木曜日 10:00～14:00
国際理解講座(年数回) 「ねえ聞いて!ワタシのお国自慢」	外国人研修員が出身国を紹介するセミナーの進行と通訳	土曜日 13:30～15:00
茶道・着付け教室(年数回)	各教室の講師補助(語学力不要)	金曜日 19:00～21:00

情報センターからのお知らせ



- ひろしま国際プラザ2階にあるNGO交流室は、
- ◆4つの机と16脚の椅子、NGO団体機関誌ファイルが140余りあり、各種ミーティングに無料でご利用いただけます。
 - ◆開館時間は毎日(年末年始を除く)10:30～19:00です。昼休みはありません。
 - ◆団体の予約も受け付けます。
 - ◆隣の図書室にはインターネットの検索ができるPCルーム(無料)とコピー機(有料)、国際協力関係の蔵書やDVD、CD(閲覧・視聴可)などがあります。
- ご利用をお待ちしております。なお詳細についてはお問い合わせください。

☆お申込み・問合せ先

財団法人ひろしま国際センター研修部

〒739-0046 東広島市鏡山三丁目3-1 ひろしま国際プラザ内

(電話 082-421-5900 FAX 082-421-5751)

・事務室開室時間 月～金 9:00～18:00

・情報センター・図書室開室時間 毎日 10:30～19:00(平日 13:30～14:30は閉室)

URL: <http://hiroshima-ic.or.jp/hip/>

E-mail: hicc@hiroshima-ic.or.jp(事務室), hiccinfo@hiroshima-ic.or.jp(図書室)



広島から世界へ！ 3月下旬より、広島県出身の青年海外協力隊5人、シニア海外ボランティア1人の合計6人が、ベトナム・ケニア・パプアニューギニア・インドネシアなど合計6カ国に向けて出発します！



【青年海外協力隊】（※左から氏名・派遣国・職種）

吉川 美紀	ベトナム	日本語教師
梁瀬 賢志	ザンビア	公衆衛生
村田 菜美	ケニア	村落開発普及員
小野藤 靖	パプアニューギニア	感染症対策
田邊 圭	キルギス	野菜栽培

【シニア海外ボランティア】

魚谷 牧夫	インドネシア	廃棄物処理
-------	--------	-------

派遣中の広島県出身 JICA ボランティア(人)

区 分	男性	女性	合計
青年海外協力隊	19	26	45
シニア海外ボランティア	14	0	14
日系社会青年ボランティア	0	0	0
日系社会シニアボランティア	0	2	2

平成24年2月29日現在

～広島県 JICA デスクの一年間を振り返って～

JICA 国際協力推進員（広島県） 大塚 善久（平成18年度 マラウイ派遣 村落開発普及員）

広島県の JICA デスクとして、昨年3月からここクリスタルプラザにて勤務を開始してから早1年。仕事を通じてこの一年間で本当に沢山の方々とお会いすることができました。JICA ボランティアの表敬訪問では、出発・帰国ボランティアに同行し、湯崎知事をはじめ、各自治体への市長・町長様と面会させていただく機会も多くいただきました。

また、県内の小学校～大学の現場に、時には自らが「国際協力出前講座」の講師として、訪問・講義をさせていただくことも多々ありました。一年間終わってみると、たくさんの「新しい経験」ができた一年間だったと実感しています。

その中でも、昨年の7月末に JICA 中国で実施された1泊2日の「高校生国際協力体験プログラム」には、広島県だけでなく、岡山・山口からも総勢40人を超える意欲的な高校生が集まりました。私もこの仕事を始めるまでは、出前講座の講師という立場以外で、15歳以上も年の離れた高校生と直接接する機会は全くありませんでしたし、むしろ自分が社会に出てからは、学生時代の感情や記憶が徐々に薄れ、自分と違う時代に育った高校生を「平成生まれの最近の高校生」として、一方的な枠に当てはめて考えていたように思います。しかし、プログラムを通じて、好奇心旺盛で元気の良い姿に、時代を超えた同じ日本人としての共通点も感じることができましたし、私自身の価値観も大きく変化したように思っています。また、この原稿執筆後の3月17・18日には、春の同プログラムが開催され、今回もスタッフとして参加します。この春も高校生たちからどのような刺激をもらえ、またどのような新しい発見があるのか大変楽しみです。

そして、去る2月12～19日には、JICA 中国と(財)ひろしま国際センターの共催事業として、6泊8日で開催したカンボジア・スタディツアーに JICA 側スタッフとして同行してきました。「若手人材の育成」をテーマにしたこのツアーは、参加者のほとんどが県内の大学に通う1～3年生。これが初海外という人も多く、「健康・安全対策」などの自己管理はもちろんのこと、「楽しかっただけのツアー」で決して終わらせてはいけない「人として持たねばいけない視点」についても色々とアドバイスをさせていただきました。このツアーを通して得た経験を忘れずに、日本国内の問題・課題にもしっかりと目を向け、変わりゆく次の時代をリードできる「人間力のある日本人」となってくれることを心から願っています。参加者からも、「参加して価値観が大きく変わった」との声が聞かれ、私も本当に嬉しく思っています。

最後になりますが、来年度は今年度以上に熱く、気合を込めて、持ち前の熱血さで頑張っていきたいと思っています。また来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

JICA カンボジア事務所で、関係者とスタディツアー参加者との記念撮影



【JICA ボランティア体験談 & 説明会のお知らせ】

JICA ボランティアの平成24年度春募集 体験談 & 説明会を、広島県では4ヶ所の会場で合計5回開催します。

広島市内では、「広島市まちづくり市民交流プラザ」にて計2回、広島市以外では東広島の「JICA 中国」と「広島大学 大学会館」で1回ずつ、福山の「県民文化センターふくやま」で1回の合計5回を開催します。青年海外協力隊・シニア海外ボランティアに興味をお持ちの方は、お気軽に会場までお越し下さい。たくさんの方のご来場をお待ちしています。

詳しい日程・時間につきましては、JICA 中国のウェブサイトからご確認ください。

<http://www.jica.go.jp/chugoku/enterprise/volunteer/setsumei/jocv.html>

（広島県 JICA デスク 大塚）

“フレンドシップ フォース インターナショナル”とは…

1977年の3月、ホワイトハウスのセレモニーで、時の大統領ジミー・カーター氏によって創設された“フレンドシップ フォース インターナショナル”は、人と人をつなぐ交流で多くの人の評価を得て、ノーベル平和賞候補にも挙がりました。今では世界61カ国に活動の拠点をもちます。日本では1982年、東京クラブが発足、25のクラブが毎年、「渡航」や「受入」を活発に行っています。

それは「交換」と呼ばれます

“フレンドシップ フォース”は、ホームステイという形で、国の違う市民同士が生活を共にし、文化の違いや類似点を発見し、相互理解を深める地球レベルの交流活動です。

渡航 アンバサダー(民間大使)として海外へ赴き、自国の正しい紹介と相手国の理解に努めます。1回のホームステイは1週間というのが基本的なパターンです。滞在中は家庭ごとにアンバサダーの希望を重視した安心でオリジナリティーあふれる新しい経験が約束されています。

受入 外国からお見えになるアンバサダー(民間大使)を、クラブ単位で家庭にお迎えし、私たちのありのままの姿を紹介するのがホストの役割です。特別な準備は必要ありません。受入は原則として1週間。お布団とお食事を提供していただきます。日中は観光地めぐりをする必要はありません。ふだんの生活に触れるチャンスを数多く作ってあげてください。

フレンドシップ フォース 広島

大戦中、三次市甲奴町「正願寺」から軍に供出された梵鐘は兵器になることなく、現在、ジョージア州アトランタ市、カーターセンターに展示されています。これを縁に第39代元大統領、ジミー・カーター氏が甲奴町を2度も訪問されたことが、2004年にフレンドシップ フォースが広島に生まれるきっかけになりました。2009年、広島、福山、三次の3支部が統合され新体制が発足し現在、65ファミリーが登録しており、定期的に「渡航」と「受入」を行っています。

当活動に関心のある方は、ご連絡ください。

会長 : 森川高明 (082-276-7411)

事務局長: 猪原敏郎 (084-934-6971)

<もっと詳しい情報をご希望の場合は、次のウェブサイトをご覧ください>

- “フレンドシップ フォース 日本” www.friendshipforce.jp
- “フレンドシップ フォース インターナショナル” www.thefriendshipforce.org

★★第35回 フレンドシップ フォース インターナショナル 世界大会が広島で開催★★

今年10月30日から11月2日までの4日間、広島市で世界大会が開催されます。国際会議場とANAクラウンプラザホテルに、約400名のアンバサダーが国内外から集まる予定です。期間中、参加者は新しい友人を作り、古い友情を温め、日本を楽しみ、そして、「ヒロシマ」を学んでいただきます。市民同士の交流を通して、世界の平和を希求するフレンドシップ フォースの理念が、ここ、ヒロシマで結実することを願っています。

この世界大会にご興味がおありでしたら、前出のウェブサイト、“フレンドシップ フォース インターナショナル” www.thefriendshipforce.orgをご覧ください。

～フレンドシップ フォース インターナショナルの活動の数々～



創設者カーター元大統領表敬訪問



米国・オリンピア クラブ受入



ドイツ・ハノーバー クラブ受入



ハンブルグ世界大会で交流

Upcoming Events News No.120

※それぞれの会員限定のものもあります。主催者にお問い合わせ下さい。

平成24(2012)年 4 月分

内 容	
22日 (日)	広島県国際交流協会 『4月講演会』 A short discussion: "Enrollments at university in autumn rather than in spring" A presentation entitled "My impression of moving from the South to the North in America" will be given by Mr. Micah Shanks (graduated from Abilene University: major psychology) on April 22nd, the fourth Sunday, at 1:00 PM in the Lounge. Before the speech, we will have a Karaoke lesson featuring the song "The Green Leaves of Summer." Following the song, the above-mentioned concern will be discussed briefly. 時 間 13:00～ 場 所 ラウンジ 尾道市久保3-14-18 問合せ 広島県国際交流協会 松浦 TEL: 0848-37-3518 E-mail: matsuuras2000@ybb.ne.jp URL: http://www.geocities.jp/matsuuras2000/

平成24(2012)年 5 月分

内 容	
6日 (日)	上田宗箇流和風会 『縮景園茶摘茶会』 古くは八十八夜に広島藩・浅野家の伝統行事として行われていた茶摘行事を再現し、一心一葉の新茶を摘み取り、蒸して揉む作業を行い、新茶と抹茶で伝統文化に親しむお茶会を開催します。 時 間 10:00～15:00 (受付時間) 場 所 広島県縮景園 参加費 600円 (別途入園料が必要) 問合せ 上田宗箇流和風会 担当者 佐々木育生 (事務局長) TEL: 082-271-5307

平成24(2012)年6月分

内 容	
10日 (日)	上田宗箇流和風会 『縮景園田植茶会』 五穀豊穡を祈願して、古くから行われている田植行事を再現し、併せて茶会を開催し、日本の伝統文化に親しむ機会を開催します。新庄郷土芸術保存会による「新庄のはやし田」「南条おどり」の披露と、上田宗箇流青年部の早乙女が田植が行われます。田植の風物詩といえば早乙女。現在では目にする機会が少なくなった昔ながらの風景、花田植が披露されます。 時 間 10:00～15:00 (受付時間) 場 所 広島県縮景園 参加費 700円 (別途入園料が必要) 問合せ 上田宗箇流和風会 担当者 佐々木育生 (事務局長) TEL: 082-271-5307

By Guillaume Lamothe

Finally, Spring is coming! Hurray! In Canada, I would be smiling just to think of the end of freezing months of -40°C snowstorms, but in Japan, I have beautiful cherry blossoms and their accompanying 花見 to look forward to! Now, if only the weather could stay nice and not gradually boil over into Summer...

Anyways, “to our meat and potatoes” as we say; or “to the substance of this article.” In this edition I would like to speak about a subject that, as an ex-assistant language teacher (ALT), is never far from my mind: Japan’s mandatory English education and, more importantly, the problems it faces.

To begin with, there are a couple of truths regarding English in Japan that I think we can all agree on. First: with globalization, learning English is slowly going from being an advantage, to being a necessity to lead a comfortable upper-middle class life. Second: Japan’s average level of English is rather low, particularly if we look at the amount of money spent on English compared to other places like, say, China. In general, there is in agreement that Japan must continue making efforts to improve the English level of its students. And this is why the question I want to ask you today may, at first, seem a little surprising.

Why is English education mandatory in Japan?

Bear with me here. You see, in this country, learning English remains a mandatory subject all the way until university, no matter if the chosen major of a student is agriculture, or engineering. Now, I have no doubt that this stems from good intentions. After all, the logic goes, the level of English of Japanese students is low, so if we make more students study English, then more students will achieve a high level of English proficiency. Makes sense, right?

Well, wrong. With Japan’s particular education system, it doesn’t work like that. You see, unlike many countries, students here cannot be made to repeat a grade, even if they fail their course. With mandatory English lessons for everyone, what this quickly leads to is a huge discrepancy between the language skills of different students, who are nevertheless forced to be in the same class. By the 3rd grade of junior high school, students who cannot read the Roman alphabet are often being put in the same class as students who are quite good at basic English conversation! Naturally, this massive difference in English ability makes it almost impossible for teachers to make classes interesting for everyone, which in turn ends up hurting the class atmosphere, and slows everybody down. In such circumstances, even the high-level students find it hard to make progress. Forcing everyone to take the same English classes, regardless of level or interest, is obviously not working.

So, why is English education still mandatory in Japan?

Let’s be honest: though English is tremendously important for today (and tomorrow’s) world, it is still unrealistic to think that 100%, or maybe even a majority, of high school graduates in Japan will need to speak English to lead happy, productive lives. The system as it is is not helping students who will not use English once they graduate and, what’s worst; it is actually hurting the students who do want to learn. What we paradoxically end up with is more time and effort spent on English education, to the detriment of other subjects, for less language progress!

There are many ways to fix this systematic problem. But I am not one who can give answers. I am neither a citizen, nor even a permanent resident of this country. I simply hope that this article may inspire a few of you, Japanese readers, to begin re-thinking your assumptions about the best ways to improve English education here in Japan. More English, is not always better English.

So, why do you think English education is mandatory in Japan?

What am I supposed to do?
That’s difficult.



Hiroshima Calendar

Date	Event	Location
April 15 th	Daishoin Hot Coal Festival -not for the faint of foot!	Miyajima -Daishoin Temple
28-29 th	69 th Onomichi Port Festival -Shows, stalls, and sun!	Onomichi City
29 th	Kure Port Festival -Songs and a parade!	Kure City
May 3 rd -5 th	Hiroshima Flower Festival -Since 1977!	Peace Blvd.
19 th -20 th	Fukuyama Rose Festival -The biggest event of the year in Fukuyama!	Fukuyama City
June 1 st -3 rd	Toukasan Yukata Festival -Come enjoy a typical Japanese summer activity in this Hiroshima City Temple!	Hiroshima City -Toukasan Temple

Editor's notes:

Sun! Spring! Sakura! I'm off to the park to watch some cherry blossoms in... that's right, shorts! This is the time of year we're all really glad we live in Japan, so take your time and count your blessings before the merciless onset of summer! As always, if you have any questions or comments, please email me at hic05@hiroshima-ic.or.jp

HIC交流部からのお知らせ 通訳・ガイド、翻訳登録のボランティアの皆さんへ

国際交流なんでもボランティアについては、4月から、これまでの“なんでも”から、募集項目を絞り、新たなスタイル「多文化共生ボランティア事業」に変わります。登録の皆様には別途お伝え致しますが、現在のB登録(通訳・ガイド、翻訳)については、各種育成講座を開催する予定です。これまでは依頼があればご案内する方法をとっておりましたが、今後はそれに加え、意欲のあるボランティアを増やし、活躍の舞台を増やすとともに、地域在住や来訪する外国人の助けとなるよう各種育成講座を設けたいと考えております。

具体的には、『医療通訳育成事業』や『災害支援育成事業』『グッドウェル・ガイド育成事業』を考えております。広島に来られた外国人の助けになるよう、多様な言語のボランティアも募集します。

お近くで関心のある方がいらしたら、是非お声かけ下さい。

開催案内については、ホームページでも公開します。どうぞお楽しみに！

※ボランティア登録については、hic03@hiroshima-ic.or.jp (担当) 野口 まで

法人ひろしま国際センター

〒730-0037

広島市中区中町8-18 広島クリスタルプラザ6階

Crystal Plaza 6F, 8-18 Nakamachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0037, Japan

ご質問・ご意見などご遠慮なくお寄せください

Any questions, suggestions, and criticism regarding HIC Tsushin can be addressed to:

TEL : (082)541-3777 FAX : (082)243-2001

URL (Japanese) <http://hiroshima-ic.or.jp/>

(English) <http://hiroshima-ic.or.jp/hice>

E-mail: hic@hiroshima-ic.or.jp

